

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|---------------------|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 病理学総論 | | 担当教員 | 石井 映幸 | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 1年後期 |
| 授業形態 | 講義 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 実務経験：有、病院勤務（医師）：28年 | |

授業概要

正常な人間の構造と機能を理解した上で、病気の原因・発生機序・病態について学ぶ。総論として、細胞・組織の障害と修復循環障害、炎症と免疫、移植と再生医療、感染症、代謝障害、老化と死、先天異常と遺伝子異常、腫瘍ならびに器官系統別の疾患を各論として学習する。

到達目標

1. 病気の原因・発生機序・病態について説明することができる。
2. 症候論から見た病態を説明することができる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|-------|--------------------|
| 1 | 病理学とは | 病気の成り立ち |
| 2 | 循環障害 | 体循環と肺循環 浮腫の原因 門脈循環 |
| 3 | 循環障害 | 血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血 |
| 4 | 循環障害 | チアノーゼ、ショックの分類、DIC |
| 5 | 炎症 | 炎症の徴候、発症機序 |
| 6 | 炎症 | アレルギーの分類 |
| 7 | 免疫疾患 | 免疫システムについて |
| 8 | 免疫疾患 | 膠原病について |
| 9 | 代謝異常 | 脂質異常症、肥満 |
| 10 | 代謝異常 | 糖代謝異常、動脈硬化症、痛風 |
| 11 | 変性・壊死 | 萎縮・老化 |
| 12 | 先天異常 | 先天異常と遺伝子異常 |
| 13 | 先天異常 | 胎児異常、遺伝子異常、染色体異常 |
| 14 | 腫瘍 | 腫瘍の発生 |
| 15 | 腫瘍 | 良性と悪性、ステージ分類 |

| | |
|--------|--|
| 評価 | 客観テストによる評価 100% |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学（医学書院） |
| 参考図書など | 疾病のなりたち（医学書院） |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|----------------------|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 基礎看護学概論 | | 担当教員 | 増田信代 | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 1年 前期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 実務経験：有、病院勤務（看護師）：16年 | |

授業概要

看護学の導入科目として、「看護とは何か」、「看護の対象である人間とは何か」を学び、看護の目的とその達成のためにどのような方法で看護を行うのかの基本的な知識について学修する。看護は人間の健康に働きかけるため、看護の構成要素である「人間」「環境」「健康」「看護」を理解し、またその関連性を学修する。さらに、「看護の対象者の理解」「国民の健康状態と生活」「看護の提供者」「看護倫理」を学び、専門職としての看護の役割・機能について学修する。

到達目標

1. 看護の変遷と看護とは何かについて説明することができる。
2. 看護のさまざまな概念、定義について説明することができる。
3. 看護の対象を述べることができる。
4. 国民の健康の全体像について説明することができる。
5. 看護活動を展開するために必要な倫理について説明することができる。
6. 看護の場における看護師の役割と責任について説明することができる。
7. 「看護とは」を自分の言葉で述べることができる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|----------------------|---|
| 1 | 看護の概念 | 1) 看護の定義 2) 看護の役割・機能 |
| 2 | 看護の変遷 | 1) 看護の変遷と看護とは |
| 3 | 看護の主要概念 | 「人間」「健康」「看護」「環境」 |
| 4 | 看護における倫理 | 1) 現代社会と倫理、2) 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 |
| 5 | 保健医療システムにおける看護の役割と機能 | 1) 保健医療システムにおける関連職種と役割 2) 看護の役割・機能の拡大 3) 多職種連携協働 |
| 6 | 職業としての看護の発展 | 1) 職業としての看護の変遷 2) 看護の資格にかかる法律 3) 看護職の継続教育とキャリア開発 |
| 7 | 看護の対象の理解① | 人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味 1) 対象理解の基盤となる人体の構造と機能・病態生理、2) ホメオスタシス |
| 8 | 看護の対象の理解② | 1) 「こころ」と「からだ」にかかるストレス、2) 患者心理の理解 |
| 9 | 看護の対象の理解③ | 1) 生涯発達しつづける存在としての人間理解、2) 人間の「暮らし」の理解 |
| 10 | 看護の対象の理解④ | 看護理論家の人間・健康の捉え方① |
| 11 | 看護の対象の理解⑤ | 看護理論家の人間・健康の捉え方② |
| 12 | 国民の健康状態と生活① | 1) 健康の定義 2) 健康の捉え方、3) 国民の健康状態 |
| 13 | 国民の健康状態と生活② | 健康と生活の関連 個人ワーク 1) 国民の健康状態、2) 国民のライフサイクル |
| 14 | 国民の健康状態と生活③ | 健康と生活の関連 グループワーク 1) 国民の健康状態、2) 国民のライフサイクル |
| 15 | 国民の健康状態と生活④ | 健康と生活の関連 発表 1) 国民の健康状態、2) 国民のライフサイクル |

| | |
|--------|---|
| 評価 | 客観テストによる評価80%、提出物20% |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野I 看護学概論 基礎看護学① (医学書院) 看護覚え書 (現代社) よくわかる看護者の倫理綱領 (照林社) |
| 参考図書など | |

| | | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|---------------------|-------|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 精神看護学概論 | | 担当教員 | 橋本 貴 | | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 1年 後期 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 実務経験：有、病院勤務（看護師）20年 | | |

授業概要

本科目では、精神看護の実践の基礎となる、心のしくみと働き、心の発達と精神の健康問題、精神の健康問題が人々の生活に及ぼす影響、また精神医療・看護の歴史的変遷、倫理と人権、精神保健福祉に関する法律と制度について学習し、精神看護の基本的な考え方、役割を学ぶ。授業方法は、講義を中心として展開する。

到達目標

- 1 心の健康の保持・増進について、また心の健康に影響を及ぼす因子について理解することができる。
- 2 心の構造について理解し、心の成長について理解することができる。
- 3 精神障がい者の処遇と医療、看護の歴史を学び現在の問題点と今後の展望について考えることができる。
- 4 精神保健・医療・福祉の法律や制度を理解する。
- 5 精神看護の対象及び対象に現れる精神症状の特徴を理解する。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|----------------------------|--|
| 1 | 精神看護とは | 精神看護に対するイメージ、対象に対するイメージ、心の健康とは何かということについて現在の自身の考え方を表現する。 |
| 2 | 脳と心 | 心（精神）とは何か。精神と脳の関係について学ぶ |
| 3 | 心の健康とは① | 健康という視点から心の健康とは何か、心が健康であるためには何が必要かを学ぶ |
| 4 | 心の健康とは② | 心の健康に影響を及ぼす因子、心の健康を守るための精神保健について学ぶ |
| 5 | 心の構造 | 心の実態について学ぶ。意識・無意識・前意識、自我、超自我、エス |
| 6 | 精神医療の歴史① | 精神医療の成り立ち、精神医療が歩んできた暗黒の歴史について学ぶ |
| 7 | 精神医療の歴史② | 日本の精神医療の成り立ちと暗黒の歴史、どのような過程で制度が変化していったのかを学ぶ |
| 8 | 精神保健福祉法① | 精神医療を取り巻く法律について学ぶ。精神保健福祉法の目的について学ぶ |
| 9 | 精神保健福祉法② | 入院形態、行動制限について学ぶ |
| 10 | 精神保健福祉法③ | 患者の人権を守るための仕組みについて学ぶ |
| 11 | 精神症状① 思考の障害 | 思考の障害について学ぶ |
| 12 | 精神症状② 感情の障害、知覚の障害、意欲の障害 | 感情の障害、知覚の障害、意欲の障害について学ぶ |
| 13 | 精神症状③ 意識の障害、記憶の障害、知能の障害 | 意識の障害、記憶の障害、知能の障害について学ぶ |
| 14 | 精神看護を行う上で必要なもの① | 精神看護の土台となるものについて学ぶ（患者-看護師関係）① |
| 15 | 精神看護を行う上で必要なもの② | 精神看護の土台となるものについて学ぶ（患者-看護師関係）② |

| | |
|--------|------------------------------------|
| 評価 | 客観テストによる評価100% |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①（医学書院） |
| 参考図書など | 適宜紹介する |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|--------------------|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 成人看護学概論 | | 担当教員 | 小泉由香里(1~15) | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 1年 後期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 実務経験：有、病院勤務（看護師）9年 | |

授業概要

生涯発達という観点から成人期にある人々の特徴についてライフサイクルの視点から対象を深く広く理解すると共に、成人期に特有な健康問題及び各健康レベルに応じた成人看護に有用な理論ならびに概念を学び、多様な看護観について学修する。
成人期は人生の中で多様性、複雑性に富んだ社会生活を営んでいる。その成人期にある対象を看護するには、対象理解や社会の変化に対応した能力が求められる。そこで本時では、生涯発達という観点とライフサイクルからみた成人期の特徴と発達課題について学習する。その上で成人期の生活と健康について環境や生活スタイル、現代社会における健康問題や政策など様々な方向から動向を探り、対象の状態に応じた看護アプローチ、倫理的判断についても学修する。

到達目標

1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけとその定義・発達課題について説明することができる。
2. 成人期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴について説明することができる。
3. 現代社会における保健の動向と成人期の特徴的な健康問題を知り、対象の生活と健康を関連付け説明することができる。

4. 成人期にある対象の看護に有用な理論の理解と応用について説明できる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|--------------------|---|
| 1 | 成人期の理解 | 1. 生涯発達とは 2. ライフサイクルからみる成人期の特徴 |
| 2 | 成人各期の理解 | 1. 各期の身体的・心理的・社会的特徴 |
| 3 | 発達課題と発達危機 | 1. 各期の発達課題と発達危機 |
| 4 | 成人と家族 | 1. 家族とは 2. 家族の役割と機能 |
| 5 | 成人の生活と疾病構造を探る1 | 成人の生活と健康問題の関係と解決策：PBLにてグループワーク |
| 6 | | 発表 |
| 7 | 疾病構造を探る2 | 1. 成人の生活と疾病構造 2. 成人期に特徴的な健康問題 3. 生活習慣と疾病 4. ストレスと健康問題 5. 職業疾患 |
| 8 | | |
| 9 | 健康を守り育むシステム | 1. 保健・医療・福祉システムの概要 2. ヘルスプロモーション 3. 地域の特徴と健康維持増進活動 4. 健康レベルに応じた看護 |
| 10 | | |
| 11 | 倫理的判断と意思決定支援 | 1. 意思決定支援と看護師の役割 |
| 12 | 成人看護のアプローチの基本 | 1. 健康生活を促すための看護技術 |
| 13 | 成人看護に有用な中範囲理論とその活用 | 1. 主な理論 (1) 保健行動的理論（健康信念モデル、行動変容ステージモデル、病みの軌跡、セルフケア理論） (2) 生理学の中範囲理論（ニード論） (3) 情動的中範囲理論（ストレス・コーピング理論、死の受容過程理論、危機理論） (4) 社会的中範囲理論（役割理論、カルガリーファミリー看護モデル） (5) その他（症状マネジメントモデル、エリクソン発達論） 2. 理論を使ってみよう |
| 14 | | |
| 15 | まとめと補足 | まとめと補足 |

| | |
|--------|--|
| 評価 | 客観テストによる評価 80%、課題および授業参加状況 20% |
| 教科書 | 系統看護学講座専門分野 成人看護学総論【第15版】医学書院 看護のための人間発達学【第5版】医学書院 看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント【改定第3版】南江堂 看護学テキスト NiCE 看護理論【改定第3版】南江堂 |
| 参考図書など | 適宜紹介する |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|------|----------------------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2023年度 |
| 授業科目名 | 基礎看護方法論Ⅷ | | | 担当教員 | 高橋 綾子 |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 2年 前期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | | 実務経験：有、病院勤務(看護師)：20年 |

授業概要

健康障害のある対象の治療方針が決定され、安心して安全・安楽に診療を受けられるように、また、治療効果が上がるよう援助することは看護師の重要な役割である。薬物療法において、解剖生理学、薬理学、看護物理学の知識をもとに、安全・安楽な科学的根拠のある援助方法と与薬後の観察の視点を学ぶ。注射における身体的侵襲による対象の苦痛に配慮できる態度を学び、正確で安全な与薬技術を修得する。

到達目標

1. 与薬の意義・目的を説明することができる。
2. 与薬の経路と体内動態を説明することができる。
3. 各与薬法の目的・方法・留意点を説明することができる。
4. 与薬における看護師の役割を説明することができる。
5. 輸血療法の目的、方法、留意点を説明することができる。
6. 与薬の援助を受ける対象への配慮する必要性を説明することができる。
7. 誤薬防止の確認方法を実践することができる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|----------------------------|--|
| 1 | 与薬に関する基礎知識 | 1) 薬物療法の理解 2) 薬物療法を受ける患者への技術 3) 薬物療法における看護師の役割 4) 薬の取り扱い |
| 2 | ADME 各与薬法の技術① | 1) 吸収から排泄までのメカニズム 2) 口腔内与薬（経口薬・舌下薬）（初回通過効果）の技術 3) 皮膚用製剤（塗布・貼付）の技術 4) 点眼、点鼻、点耳、吸入法 |
| 3 | 各与薬法の技術の実際 | 【演習】 経口与薬法、皮膚用製剤の塗布・貼付の技術の実際（模擬患者への実践） |
| 4 | 各与薬法の技術② | 【演習】 1) 直腸内与薬の技術 解剖・生理、基本的方法 2) モデル人形を用いて直腸内与薬の実践 |
| 5 | 各与薬法の技術③ 注射法の基礎知識 | 1) 注射法の理解 2) 注射法を受ける患者への技術 3) 注射法における看護師の役割 |
| 6 | 各与薬法の技術③ 注射法の基礎知識 | 1) 皮内注射、皮下注射、筋肉内注射の基本的技術 必要な器具の取り扱い、共通する実施方法、注射による合併症 |
| 7 | 注射法の技術の実際① 皮下注射 | 【演習】 皮下注射の技術の実際 1) 注射器（シリング）、注射針の取り扱い、アンプルカット、薬液の吸引 2) モデル人形・模擬患者に基本的な注射方法（注射部位、角度、注入）を実践する。 |
| 8 | 注射法の技術の実際② 筋肉内注射 | 【演習】 筋肉内注射の技術の実際 1) 注射器（シリング）、注射針の取り扱い、バイアル、薬液の溶解、吸引 2) モデル人形・模擬患者に基本的な注射方法を実践する。 |
| 9 | 注射法の技術の実際③ 静脈内注射 | 【演習】 静脈内注射の技術の実際 1) 注射器（シリング）、注射針の取り扱い、バイアル、薬液の溶解、吸引 2) モデル人形・模擬患者に基本的な注射方法を実践する。 |
| 10 | 各与薬法の技術④ 注射法の基礎知識 | 1) 静脈内注射の技術 2) 点滴法 3) 輸液ポンプ、シリジポンプの特徴・適用を知る。 |
| 11 | 輸血の基礎知識 | 1) 輸血の種類、保存期間、保存方法 2) 考査試験 |
| 12 | 各与薬法の技術④ 注射法の基礎知識 | 1) 静脈内注射の技術 2) 点滴法 3) 輸液ポンプ、シリジポンプの特徴・適用を知る。 |
| 13 | 注射法の技術の実際③ 静脈内注射 | 【演習】 静脈内注射の技術の実際 1) 注射器（シリング）、注射針の取り扱い、アンプルカット、薬液の吸引 2) モデル人形を用いて基本的な注射方法（注射部位、角度、注入）を実践する。 |
| 14 | 注射法の技術の実際④ 静脈内点滴注射の調整技術 | 【演習】 1) 手動での輸液滴下調整法の実施。 2) 輸液ポンプ、シリジポンプでの滴下調整法の機械操作の実施。 |

| | |
|--------|--|
| 評価 | 客観テストによる評価とレポートによる総合評価 |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野I 臨床看護学総論 基礎看護学④（医学書院） 系統看護学講座 専門分野I 基礎看護技術II 基礎看護学③（医学書院） 看護が見えるVol①② 基礎看護技術（MEDIC MEDIA） |
| 参考図書など | 適宜紹介する |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|--------------------|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 基礎看護学方法論Ⅺ | 担当教員 | | 監物 直子 | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 履修時期 | 2年 前期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 実務経験：有、病院勤務(看護師)9年 | |

授業概要

臨床判断能力は、看護師の能力のひとつである。対象の状況における変化を認識できる能力であり、その場で気づき、解釈し、実践、評価する一連の過程である。臨床判断能力が必要とされる「気づき」は、今までの経験や既習学習に基づくものである。看護師が臨床で「気づき」「解釈」を通して、実践につなげていく臨床判断モデルに沿って思考過程を学ぶ。実習での体験を通して、「気づき」「解釈」「反応」「省察」の経験したことを用い、リフレクションを通して、臨床判断モデルに沿って思考過程を実践する。臨床判断を行うための基礎的能力を身につける。

到達目標

1. 臨床判断を説明することができる。
2. リフレクションを説明することができる。
3. 既習の知識を統合し、臨床場面の変化に気づき、その意味や現象を解釈することができる。
4. リフレクションやグループワークを通して、自身の行動を振り返ることができる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|------------------|---|
| 1 | 臨床判断とは | 1) 臨床判断の定義 2) 臨床判断モデル |
| 2 | 気づくラウンド① | 1) 臨床判断「気づく」トレーニング 日常生活行動「排泄」「食事」「清潔」を支援するための情報に“気づく” ケース1：排泄の援助場面 |
| 3 | 気づくラウンド② | 1) 臨床判断「気づく」トレーニング 日常生活行動「排泄」「食事」「清潔」を支援するための情報に“気づく” ケース2：清潔の援助場面 |
| 4 | リフレクションとは | 1) リフレクションとは 2) 行為についてのリフレクションと行為のなかのリフレクション 3) リフレクションに必要なスキル 4) リフレクティブーサイクル |
| 5 | リフレクションの実際 | 1) 基礎看護学実習Ⅱの経験をリフレクションする (1) リフレクティブサイクルを活用して |
| 6 | リフレクションの実際 | 1) 基礎看護学実習Ⅱの経験をリフレクションする (1) リフレクティブサイクルを活用して |
| 7 | リフレクションの実際 | 1) 基礎看護学実習Ⅱの経験をリフレクションする (1) グループ発表 学びの共有 |
| 8 | フィードバック (45分) | 1) リフレクションを促進するフィードバック 2) リフレクション学習におけるフィードバックのスキル |

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 評価 | 客観テストによる評価100% |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学実習②（医学書院） |
| 参考図書など | 適宜紹介する |

| | | | | | | |
|-------------|--------------|---------------|------|--------|---------------------|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2023年度 |
| 授業科目名 | 地域・在宅看護論方法論Ⅰ | | 担当教員 | 内記 千亜紀 | | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 2年 前期 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | | 実務経験：有 病院勤務（看護師）19年 | |
| 授業概要 | | | | | | |

在宅療養者の日常生活の支援は、療養者と家族が「生活する」ことを支える。看護者には、療養者と家族が自分たちの生活に合った工夫をしながら、自立し安定した生活を送れるよう支援することが求められる。在宅で生活していく上での「呼吸機能」「食生活・嚥下」「排泄」「移乗・移動」「清潔」「認知機能」「コミュニケーション」の特徴をふまえ、求められる看護技術について学ぶ。その学習を基に事例に対する日常生活援助を実践し、療養者・家族の生活の場におけるマナーや看護援助の方法について学習する。また、情報通信技術（ICT）を演習に取り入れ、訪問看護における情報共有や多職種連携の実際について学修をする。

到達目標

1. 在宅生活を支えるための「コミュニケーション」「呼吸機能」「食生活・嚥下」「排泄」「移乗・移動」「清潔」「認知機能」の看護技術を説明することができる
2. 在宅生活を支えるための看護技術を演示することができます
3. 在宅における人間関係発展に必要な基本的技術（接遇・マナー）を演示することができます
4. ICT（情報通信技術）を活用した情報共有、多職種連携について説明することができます
5. 在宅看護で学んだ知識・技術・態度を統合させ、療養者と家族の状況に応じた看護活動を演示することができます

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|------------------------|---|
| 1 | 在宅看護における人間関係発展に必要な基本技術 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療と接遇・マナーの関連について ・マナーの五原則を身につける（挨拶・表情・身だしなみ・態度・話し方） ・笑顔と立ち居振る舞い（実践） ・訪問時のマナー |
| 2 | | |
| 3 | 在宅で求められる看護技術 | <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸に関する在宅看護技術 ・排泄に関する在宅看護技術 ・食生活・嚥下に関する在宅看護技術 |
| 4 | 在宅で求められる看護技術 | <ul style="list-style-type: none"> ・清潔に関する在宅看護技術 ・移動・移乗に関する在宅看護技術 ・認知機能に関する在宅看護技術 |
| 5 | 在宅で求められる看護技術 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション |
| 6 | 在宅で求められる看護技術 | <p style="text-align: center;">【演習】生活の場で提供する援助</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) ごみ袋を使用したスライディングシート 2) シャボンラッピング 3) 電子レンジを使用した温タオルの作成 4) 空き容器を使用した洗浄ボトル |
| 7 | | |
| 8 | 在宅での看護援助の実際 | 生活の場で提供する援助計画の立案①（グループワーク） |
| 9 | 在宅での看護援助の実際 | 生活の場で提供する援助計画の立案②（グループワーク） |
| 10 | 在宅での看護援助の実際 | |
| 11 | | <p style="text-align: center;">【演習】ロールプレイング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護場面における日常生活援助の提供 ・ICT（情報通信技術）を活用した情報共有と多職種連携 |
| 12 | | |
| 13 | | |
| 14 | 在宅での看護援助の実際 | ロールプレイングの振り返り・共有 |
| 15 | まとめ | |

| | |
|--------|--|
| 評価 | 筆記試験・演習レポート |
| 教科書 | 系統看護学講座 在宅看護論（医学書院） 家族看護を基盤とした在宅看護Ⅱ実践編（日本看護協会出版会） |
| 参考図書など | |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|--|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 小児看護学概論 | 担当教員 | | 村上 ヒトミ (1、13~15) 石井 淳子 (2~12) | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 1年 後期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 村上 実務経験：有・病院勤務（看護師）13年 石井 実務経験：有・病院勤務（看護師）17年 | |

授業概要

子どもと家族を取り巻く環境とその変化について学び、小児看護の特徴と理念について学修する。子どもの成長・発達に影響する因子、成長・発達の評価、発達段階各期の形態的、生理的、知的、情緒的特徴等について学修し、小児看護の対象である子どもと家族の理解を深め、小児看護の概念と役割について学修する。また、子どもを取り巻く社会と、子どもや家族への適切な支援の概要を学修する。

到達目標

1. 小児看護の歴史から、現代における子どもを看護する上で必要な理念と看護者の姿勢について表現することができる。
2. 小児看護の目標、対象、特徴について説明することができる。
3. 小児看護を理解するために必要となる家族倫理および家族支援の必要性について表現することができる。
4. 子どもの成長・発達の原理・原則と成長過程について説明することができる。
5. 各期の子どもの特徴を形態的・機能的・心理社会的側面から具体的に述べることができる。
6. 子どもにとって必要な栄養について説明することができる。
7. 子どもや家族への適切な支援について表現することができる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|----------------------|---|
| 1 | 第1章 小児看護の特徴と理念 | ①小児看護の目指すところ ②小児看護の諸統計 ③小児看護の変遷 ④小児看護における倫理 ⑤小児看護の課題 |
| 2 | 第2章 子どもの成長・発達 | ①成長・発達とは ②成長・発達の進み方 ③成長・発達に影響する因子 ④成長の評価 ⑤発達の評価 |
| 3 | 第3章 新生児 | ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③各機能の発達 ④養育および看護 |
| 4 | 第3章 乳児（1） | ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧養育および看護 |
| 5 | 第3章 乳児（2） | |
| 6 | 第4章 幼児（1） | |
| 7 | 第4章 幼児（2） | ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧養育および看護 |
| 8 | 第4章 幼児（3） | |
| 9 | 第4章 学童（1） | ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚・運動機能 ④知的・情緒的機能 ⑤社会的機能 ⑥不適応行動・症状 ⑦学童を取り巻く諸環境 ⑧養育および看護 |
| 10 | 第4章 学童（2） | |
| 11 | 第5章 思春期・青年期（1） | ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③知的・情緒（心理）的・社会的機能 ④生活の特徴 ⑤心理・社会的適応に関する問題 ⑥飲酒・喫煙 ⑦性に関する健康問題 ⑧反社会的・逸脱行動 ⑨事故・外傷 ⑩思春期の看護 |
| 12 | 第5章 思春期・青年期（2） | |
| 13 | 第6章 家族の特徴とアセスメント | ①子どもにとっての家族とは ②家族アセスメント |
| 14 | 第7章 子どもと家族を取り巻く社会（1） | ①児童福祉 ②母子保健 ③医療費の支援 ④予防接種 ⑤学校保健 ⑥食育 ⑦特別支援教育 ⑧臓器移植 |
| 15 | 第7章 子どもと家族を取り巻く社会（2） | |

| | |
|--------|--|
| 評価 | 客観テストによる評価80%、課題レポート20%の総合評価とする |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 看護学[2] 小児臨床看護各論（医学書院） 看護実践のための人間発達学（医学書院） 国民衛生の動向 |
| 参考図書など | 適宜紹介する |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|------------------|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2023年度 |
| 授業科目名 | 母性看護学方法論Ⅲ | 担当教員 | | 内田 めぐみ | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 履修時期 | 2年 後期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 病院勤務経験：有（助産師）14年 | |

授業概要

母性看護学はウエルネス志向であり、対象は健康な成人女性である。3年次の実習で受け持つ褥婦の看護過程の展開・実践をめざし、褥婦・新生児の事例展開を通して産褥期・新生児期の看護過程を学ぶ。母性看護学はウエルネス志向であり、対象は健康な成人女性である。分娩は女性のライフサイクルにおいて大きなライフイベントであり、出産により本人のみならず家族の役割も大きく変化する。母性における対象は褥婦のみならず新生児とその家族も含まれるため視野を広げウエルネス志向で看護過程を展開し、対象に必要な支援を導き出せるよう学修する。

到達目標

- 1) 母性看護におけるウエルネス志向を踏まえヘルスプロモーションについて説明することができる。
- 2) 褥婦・新生児の紙上事例で一連の看護過程を展開することができる。
- 3) 褥婦・新生児・その家族を含めた支援の必要性を理解し支援方法を考察することが出来る
- 4) 対象褥婦の発達段階・発達課題をとらえ母親役割獲得過程に必要な支援を考察することができる
- 5) 母性におけるセルフケアの必要性を理解し、産褥期の継続看護を説明できる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|------------------|--|
| 1 | 褥婦の看護過程の展開① | ①母性看護における看護過程とは ②ウエルネスとは ③ヘルスプロモーション型看護診断 ④クリニカルパスとは |
| 2 | 褥婦の看護過程の展開② | ①講義：褥婦のアセスメントの視点 ②演習：褥婦の観察 |
| 3 | 褥婦の看護過程の展開③ | ①看護診断リストについて ②褥婦のフォーカス（GW） |
| 4 | 褥婦の看護過程の展開④ | ①褥婦のフォーカスチャーティング（授乳・子宮復古・愛着・産褥心理的応期） |
| 5 | 新生児の看護過程の展開① | 演習：新生児の観察（ドライテクニック） |
| 6 | 新生児の看護過程の展開② | ①新生児のフォーカスチャーティング |
| 7 | 褥婦の看護過程の展開⑤ | ①褥婦の看護目標立案 ②褥婦の看護計画立案 ③新生児の日々の目標立案 |
| 8 | 褥婦の看護過程の展開⑥（45分） | 継続看護の必要性（対象に必要な支援について考える） |

| | |
|--------|--|
| 評価 | レポート・客観テストによる評価合わせて100% |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論（医学書院） 看護診断ハンドブック |
| 参考図書など | 適宜紹介 |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|------------------------|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | | 病理学Ⅲ | 担当教員 | | 廣瀬 好文 |
| 単位数 | 1 単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 2年 前期 |
| 授業形態 | 講義 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 実務経験：有、病院・老健勤務（医師）：46年 | |

授業概要

循環器系・造血器系・免疫系・呼吸器系・内分泌系・代謝系の繋がりのあるシステムが失われ、正常な機能を果たすことができなくなった時、大きな影響を受けることを学習する。

到達目標

1. 循環器疾患・造血器系疾患及び内分泌・代謝系の疾患の成り立ちを説明する事ができる。
2. 疾患の回復過程、回復に必要な治療を説明する事ができる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|-------------|----------------------|
| 1 | 1. 循環器疾患 | 1) 構造と機能 |
| 2 | 1. 循環器疾患 | 2) 心不全 ショック |
| 3 | 1. 循環器疾患 | 3) 心電図と不整脈 |
| 4 | 1. 循環器疾患 | 4) 生活習慣病 動脈硬化 虚血性心疾患 |
| 5 | 1. 循環器疾患 | 5) 動静脈疾患 弁膜疾患 先天性心疾患 |
| 6 | 2. 造血器疾患 | 1) 血液の成分 酸素運搬 |
| 7 | 2. 造血器疾患 | 2) 酸塩基平衡 止血機構 |
| 8 | 2. 造血器疾患 | 3) 造血 貧血 止血障害 |
| 9 | 3. 免疫系疾患 | 1) 免疫 |
| 10 | 3. 免疫系疾患 | 2) アレルギー疾患 |
| 11 | 3. 免疫系疾患 | 3) 膜原病 |
| 12 | 2. 造血器疾患 | 4) 造血器腫瘍 |
| 13 | 4. 内分泌・代謝疾患 | 1) 内分泌 甲状腺疾患 |
| 14 | 4. 内分泌・代謝疾患 | 2) その他の内分泌疾患 |
| 15 | 4. 内分泌・代謝疾患 | 3) 糖尿病 痛風 |

| | |
|--------|---|
| 評価 | 客観テストによる評価 100% |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膜原病 感染症（医学書院） |
| 参考図書など | |

| | | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|----------------------|------|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 老年看護学方法論Ⅱ | | 担当教員 | 田中貴代子 | | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 履修時期 | 2年後期 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 実務経験：有、病院勤務（看護師）：28年 | | |

授業概要

老年期に特有な健康障害を有する老人者を理解し、健康状態に応じた看護を学ぶ。

到達目標

1. 老年期に特有な健康障害について説明することができる。
2. 健康障害が日常生活に及ぼす影響について説明することができる。
3. 健康障害に応じた看護について説明することができる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|--------------------|---|
| 1 | 高齢者に対する看護過程の展開の考え方 | 1. 老年看護における看護過程の展開 2. 紙上事例の紹介 |
| 2 | 看護過程の展開① | |
| 3 | 看護過程の展開② | 1. ゴードンの機能的健康パターンの情報整理 2. 情報の解釈・分析 3. 看護診断の抽出 |
| 4 | 看護過程の展開③ | |
| 5 | 看護過程の展開④ | 1. 看護診断の抽出 2. 優先順位の決定 |
| 6 | 看護過程の展開⑤ | 1. 看護計画立案 |
| 7 | 看護過程の展開⑥ | 1. 看護計画の実施・評価・修正 2. SOAP記録 |
| 8 | 看護過程の展開⑦ | ⑤看護過程のまとめ |

| | |
|--------|---|
| 評価 | 終講試験、看護過程、授業参加態度などの総合評価とする。 |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 （医学書院） 生活機能からみた老年看護過程（医学書院） |
| 参考図書など | ヘルスアセスメント（南江堂） 看護のための人間発達学（医学書院） |

| | | | | | | |
|-------|------------|---------------|------|--------|---------------------|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 小児看護学方法論 I | | 担当教員 | 村上 ヒトミ | | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 2年 前期・後期 | |
| 授業形態 | 講義 | 実務経験の有無・職種・年数 | | | 実務経験：有・病院勤務（看護師）13年 | |

授業概要

健康問題が子どもと家族に及ぼす影響について学習し、子どもの健やかな成長発達を支援するために必要な看護について学ぶ。

到達目標

1. 小児の成長発達と様々な健康レベルに応じた看護の特徴を説明することができる。
2. 健康障がいをもつ小児と家族への看護について説明することができる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|-----------------------------|---|
| 1 | 第1章 病気・障がいを持つ子どもと家族の看護(1) | ①病気・障がいが子どもと家族に与える影響 ②子どもの健康問題と看護 |
| 2 | 第1章 病気・障がいを持つ子どもと家族の看護(2) | ①病気・障がいが子どもと家族に与える影響 ②子どもの健康問題と看護 |
| 3 | 第2章 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護(1) | ①入院中の子どもと家族の看護 ②外来における子どもと家族の看護 ③在宅療養中の子どもと家族の看護 ④災害時の子どもと家族の看護 |
| 4 | 第2章 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護(2) | ①入院中の子どもと家族の看護 ②外来における子どもと家族の看護 ③在宅療養中の子どもと家族の看護 ④災害時の子どもと家族の看護 |
| 5 | 第2章 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護(3) | ①入院中の子どもと家族の看護 ②外来における子どもと家族の看護 ③在宅療養中の子どもと家族の看護 ④災害時の子どもと家族の看護 |
| 6 | 第3章 子どもにおける疾病経過と看護(1) | ①慢性期にある子どもと家族の看護 ②急性期にある子どもと家族の看護 ③周手術期の子どもと家族の看護 ④終末期の子どもと家族の看護 |
| 7 | 第3章 子どもにおける疾病経過と看護(2) | ①慢性期にある子どもと家族の看護 ②急性期にある子どもと家族の看護 ③周手術期の子どもと家族の看護 ④終末期の子どもと家族の看護 |
| 8 | 第3章 子どもにおける疾病経過と看護(3) | ①慢性期にある子どもと家族の看護 ②急性期にある子どもと家族の看護 ③周手術期の子どもと家族の看護 ④終末期の子どもと家族の看護 |
| 9 | 第3章 子どもにおける疾病経過と看護(4) | ①慢性期にある子どもと家族の看護 ②急性期にある子どもと家族の看護 ③周手術期の子どもと家族の看護 ④終末期の子どもと家族の看護 |
| 10 | 第5章 症状を示す子どもの看護(1) | ①不機嫌・啼泣 ②痛み ③呼吸困難 ④チアノーゼ ⑤ショック ⑥意識障害 ⑦けいれん ⑧発熱 ⑨嘔吐 ⑩下痢 ⑪便秘 ⑫脱水 ⑬浮腫 ⑭出血 ⑮貧血 ⑯発疹 ⑰黄疸 |
| 11 | 第5章 症状を示す子どもの看護(2) | ①不機嫌・啼泣 ②痛み ③呼吸困難 ④チアノーゼ ⑤ショック ⑥意識障害 ⑦けいれん ⑧発熱 ⑨嘔吐 ⑩下痢 ⑪便秘 ⑫脱水 ⑬浮腫 ⑭出血 ⑮貧血 ⑯発疹 ⑰黄疸 |
| 12 | 第5章 症状を示す子どもの看護(3) | ①不機嫌・啼泣 ②痛み ③呼吸困難 ④チアノーゼ ⑤ショック ⑥意識障害 ⑦けいれん ⑧発熱 ⑨嘔吐 ⑩下痢 ⑪便秘 ⑫脱水 ⑬浮腫 ⑭出血 ⑮貧血 ⑯発疹 ⑰黄疸 |
| 13 | 第7章 障がいのある子どもと家族の看護 | ①障がいのとらえ方 ②障がいのある子どもと家族の特徴 ③障がいのある子どもと家族の社会的支援 |
| 14 | 第8章 子どもの虐待と看護 | ①子どもの虐待の現状と対策の経緯 ②リスク要因と発生予防・早期発見 ③子どもの虐待に特徴的にみられる状況 ④求められるケア |
| 15 | 第18章（各論）精神疾患と看護 | ①子どもの心の反応とその特徴 ②アセスメント、治療および支援方法 ③主な疾患とその看護 |

| | |
|--------|--|
| 評価 | 客観テストによる評価100% |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護概論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論（医学書院） |
| 参考図書など | 適宜紹介する |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|--------------------------|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 母性看護学方法論Ⅰ | 担当教員 | | 北川 悅子 | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 2年 前期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 実務経験：有、助産師：3年、専門学校教員：38年 | |

授業概要

正常な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過を学修する。妊婦・産婦に行われている看護内容を理解し、実習では妊婦・産婦に適切な対応ができるように学修する。正常な褥婦および新生児の観察、アセスメント、看護実践ができるような知識・技術・態度を学修する。

到達目標

1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の定義を説明することができる。
2. 妊娠の成立と胎児の発育をイメージしたうえで、生命の尊厳を考察することができる。
3. 妊娠に伴って起こる変化をふまえ、ロールプレイングすることができる。
4. グループで分娩各期の看護について説明することができる。
5. 産褥期の心身の変化をふまえ、観察することができる。
6. 新生児の生理的変化をふまえ、アセスメント内容を説明することができる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|-----------------------|--|
| 1 | 第1章 妊娠期における看護 (1) | 講義概要①妊娠の定義②妊娠期間と分娩予定日③妊娠の成立と胎児付属物④胎児循環 教科書第3章 |
| 2 | 第1章 妊娠期における看護 (2) | ①妊娠各期の特徴②胎児の発育③妊娠に伴う母体の生理的変化 課題の説明 教科書第3章 |
| 3 | 第1章 妊娠期における看護 (3) | ①妊婦の心理②家族の心理③社会的サポート④妊婦健康診査 教科書第3章 |
| 4 | 第1章 妊娠期における看護 (4) | 妊娠各期（初期・中期・後期）の保健指導 ロールプレイングの準備 教科書第3章 |
| 5 | 第1章 妊娠期における看護 (5) | 妊娠各期（初期・中期・後期）の保健指導 ロールプレイング 教科書第3章 |
| 6 | 第2章 分娩期における看護 (1) | ①分娩の定義②分娩の3要素③胎児の産道通過機序 教科書第4章 |
| 7 | 第2章 分娩期における看護 (2) | ①分娩各期の看護②ピショップスコア③恐怖・緊張・痛み症候群④母子相互作用 教科書第4章 |
| 8 | 第2章 分娩期における看護 (3) | ①事例から分娩各期の看護を考える 教科書第4章 |
| 9 | 第3章 産褥期における看護 (1) | ①産褥期の生理的変化②子宮復古③乳汁分泌 教科書第6章 |
| 10 | 第3章 産褥期における看護 (2) | ①褥婦の心理的变化②家族の心理的变化③社会的支援 教科書第6章 |
| 11 | 第3章 産褥期における看護 (3) | ①子宮復古の援助②母乳促進の援助③褥婦の系統的観察④褥婦の健康と快適さを促す援助⑤育児技術への援助 教科書第6章 |
| 12 | 第1～3章 母性看護の技術 | 演習：レオポルド触診法 胎児回旋 子宮底の観察 妊婦体験 教科書第3、4、6章 |
| 13 | 第4章 新生児期における看護 (1) | ①新生児の生理的変化②子宮外適応現象③生理的黄疸 教科書第5章 |
| 14 | 第4章 新生児期における看護 (2) | ①出生直後のアセスメントと看護②黄疸の評価③生理的体重減少の評価 教科書第5章 |
| 15 | 第4章 新生児期における看護 (3) | ①新生児の観察と報告②移行期から退院までの看護③新生児の医療事故と安全 教科書第5章 |

| | |
|--------|--|
| 評価 | 客観テストによる評価90% レポート10% |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院) |
| 参考図書など | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 (医学書院) |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|---|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 母性看護学方法論Ⅱ | 担当教員 | | 水原 幸子(1~3) 内田 めぐみ(4~15) | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 2年 後期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 実務経験:水原 幸子 病院勤務(助産師)18年 内田 めぐみ有:病院勤務(助産師)14年 | |

授業概要

母性看護学概論・母性看護学方法論Ⅰを既習知識とし母性各期の異常を学習することで女性生殖器にかかる疾患及び妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の異常な経過を理解し、各期の看護を学ぶ。各期の異常を理解し、母性看護に必要な技術を習得することで臨地実習での実践へとつなげていく。

到達目標

1. セクシャリティの観点から性を理解し、女性生殖器特有の疾患・看護を述べることができる。
2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常な経過を理解し、各期の看護を学ぶことが出来る。
3. 母性看護に必要な知識を適応したうえで看護技術を模倣することが出来る。

| 単元 | 内容 |
|-------------------------|--|
| 1 性・生殖機能障害のある患者の看護 | ①女性生殖器疾患のある患者の看護 |
| 2 性・生殖器疾患がボディイメージに与える影響 | ①セクシュアリティの定義および概念 ②事例を通じてボディイメージの変化に伴う心理過程を理解する |
| 3 外性器・内性器の手術を受ける患者の看護 | ①乳房切除術 ②子宮摘出術 |
| 4 妊娠期の異常 | ①流・早産②不育症③子宮外妊娠④妊娠悪阻⑤妊娠妊娠貧血⑥糖尿病⑦双胎 |
| 5 妊娠期の異常 | ①妊娠期の感染症②血液型不適合妊娠 |
| 6 妊娠期の異常 | ①高齢妊娠・若年妊娠 ②妊娠高血圧症候群 |
| 7 分娩期の異常 | ①前期破水 ②微弱陣痛・過強陣痛 |
| 8 分娩期の異常 | ①前置胎盤②常位胎盤早期剥離③弛緩出血 |
| 9 分娩期の異常 | ①胎児機能不全②死産・障害がある児への看護③胎児心拍モニタリングについて |
| 10 産褥期の異常 | ①子宮復古不全②乳腺炎③マタニティブルー④産褥精神病 |
| 11 産褥期の異常 | 帝王切開術後の看護 |
| 12 新生児期の異常 | ①新生児仮死②新生児蘇生(アルゴリズム)③低出生体重児④低血糖 ⑤高ビリルビン血症⑥一過性多呼吸⑦胎便吸引症候群⑧呼吸窮迫症候群⑨新生児ビタミン欠乏性出血 |
| 13 新生児期の異常 | |
| 14 技術演習 | ①新生児の沐浴②身長③体重④頭囲胸囲計測④新生児バイタルサイン測定 ⑤おむつ交換 ⑥その他 |
| 15 | |

| | |
|--------|---|
| 評価 | 客観テストによる評価・課題レポート |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 (医学書院) |
| 参考図書など | 適宜紹介する |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|-------|----------------------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 精神看護学方法論Ⅰ | | 担当教員 | 片平 真悟 | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 2年前期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | | 実務経験：有、病院勤務（看護師：30年） |

授業概要

精神医学および精神保健福祉に関する法的側面について理解し、精神障がいをもつ患者の看護実践に必要な知識を学習する。
精神症状、精神科における検査法と治療法、各種精神障がい、精神保健福祉法について理解する。

到達目標

1. 主要な精神障害とその治療を説明することができる。
2. 精神看護の方法論を説明することができる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|-----------|---|
| 1 | 精神科で出会う人々 | 1) 精神を病むことと生きること 2) 精神症状論と状態像 3) 精神障害の診断と分類 |
| 2 | 精神疾患の理解① | 統合失調症 |
| 3 | 精神疾患の理解② | 気分【感情】障害【双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群】 |
| 4 | 精神疾患の理解③ | 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 |
| 5 | 精神疾患の理解④ | 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 |
| 6 | 精神疾患の理解⑤ | パーソナリティ障害 |
| 7 | 精神疾患の理解⑥ | 器質性精神障害【神経認知障害群】 |
| 8 | 精神疾患の理解⑦ | 精神作用物質使用による精神および行動の障害 |
| 9 | 精神疾患の理解⑧ | 神経発達障害群 てんかん |
| 10 | 精神疾患の理解⑨ | 心身症 秩序破壊的・衝動制御・素行障害 |
| 11 | 精神科での治療① | 薬物療法 電気ショック療法 |
| 12 | 精神科での治療② | 薬物療法 電気ショック療法 |
| 13 | 精神科での治療③ | 精神療法 個人療法 |
| 14 | 精神科での治療④ | 精神療法 集団精神療法 家族療法 |
| 15 | 精神科での治療⑤ | 環境療法・社会療法 作業療法(OT) 精神科リハビリテーション |

| | |
|--------|--|
| 評価 | 客観テストによる評価 100% |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② (医学書院) |
| 参考図書など | |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|----------------|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 在宅看護論方法論Ⅲ | | 担当教員 | 川北 千鶴 | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 履修時期 | 2年 後期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 実務経験：有、看護師：15年 | |

授業概要

在宅看護の特徴として、疾患中心とした問題解決ではなく対象の生き方や望みを把握し、生活を重視した目標達成志向での看護過程であることを学修する。また、療養者、家族の思いや生きがい、大切にしたいことを中心に家族の介護力、家族の心身の健康状態、生活環境、経済状況と社会資源の活用状況におけるアセスメントをすることによって全体像を捉え、対象の生活への影響、今後の予測について学修する。

到達目標

1. 在宅看護過程では、医療と生活の側面を目的としていることを説明することができる。
2. 事例を通じ、対象の疾患と制度・社会資源を説明することができる。
3. 在宅看護過程の構成要素とその特徴について説明することができる。
4. 健康行動理論の活用とその必要性について説明できる。
5. 在宅看護のアセスメントの視点を説明することができる。
6. 対象の強みを活かし、生活を維持できる計画立案の必要性を説明することができる。
7. ケアの継続性の視点から評価・修正の必要性を説明することができる。

| | 単元 | 内容 |
|---|-------------------------|---|
| 1 | 第1章 在宅看護過程の展開 | 在宅看護の展開方法①在宅看護の特徴②情報収集とアセスメント 目標の設定・計画④実施と評価 教科書第5章 |
| 2 | 第2章 在宅看護の事例展開(1) | 療養者に対する在宅看護の事例展開①疾患理解②事例紹介③情報の整理 教科書第7章 |
| 3 | 第3章 在宅看護の事例展開(2) | 事例展開④健康行動理論の理解と活用⑤制度・社会資源の理解 |
| 4 | 第4章 在宅看護の事例展開(3) | 事例展開⑥アセスメント(身体的側面)(精神的側面) 教科書第4章 |
| 5 | 第5章 在宅看護の事例展開(4) | 事例展開⑦アセスメント(環境・生活の側面)(家族・介護状況の側面) 教科書第7章 |
| 6 | 第6章 在宅看護の事例展開(5) | 事例展開⑧ICF関連図⑨援助計画の立案 教科書第7章 |
| 7 | 第7章 在宅看護の事例展開(6) | 事例展開⑩援助計画の実施 教科書第7章 |
| 8 | 第8章 在宅看護の事例展開(7) まとめ | 事例展開⑪目標の評価 まとめ「到達目標」達成状況の確認 教科書第4章、第5章、第7章 |

| | |
|--------|--------------------------|
| 評価 | 客観テストによる評価50% 提出物50% |
| 教科書 | 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論(医学書院) |
| 参考図書など | 適宜紹介する |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|--|--------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 災害看護と国際協力 | 担当教員 | | 今井家子(1~9)、齋藤麻子(10・11) 足立典子(12~15) | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 3年 後期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | 今井(有、看護師:50年) 齋藤(有、看護師:11年) 足立(有、看護師:48年) | |

授業概要

災害が人や社会に与える影響を知り、時間・活動の場・活動対象を組み合わせ、健康と生活を守るために必要な看護師の役割を学ぶ。講義やグループワークを通して災害発生時の病院の動きを学ぶ。また、災害急性期に必要な3Tsを演習を通して学ぶ。災害後の地域で生活する人々への看護師の役割を学ぶ。避難所運営シミュレーションを通して災害時要救援者を知り、要救援者必要な看護職者の役割を考える。災害時に必要なこころのケアについて学ぶ。世界で生じている状況を事例(新聞やテレビ)を通して理解し、看護について自分で考え、述べる機会を通して考え方を深める。(自分で表現することを大切にしたい)また、日本人の文化・価値観と外国人の文化・価値観の類似・相違を理解し、異文化に伴う看護について学ぶ。

到達目標

1. 災害とは何か。災害が人に与える影響を説明することができる。
2. 災害時の病院を取り巻く連携部門の動きを知る。発災時の病院の対応をグループワークを通して学び、要点を説明することができる。
3. 災害急性期の3Tsを正しく実践することができる。
4. 災害時の避難所での看護職者の活動をしり、机上シミュレーションを通して要救援者への看護を説明することができる。
5. 災害時のこころのケアに対する看護職者の役割を説明することができる。
6. DVDを通しての学びから、看護師になるものとしての考え方を述べることができる。
7. 対象の持つ文化的背景と熟慮した看護を考察することができる。
8. 変動する世界の健康・生活に関する課題を把握し、必要な看護(対策)を考察することができる。
9. 国際看護活動に必要な知識を類別した上で、その能力を習得するために日々自己研鑽できる姿勢をつかう。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|-------------------------|--|
| 1 | 災害医療の基礎知識 | 災害の定義、災害の種類と健康障害、災害サイクル、救急と災害の比較 |
| 2 | 災害サイクル超急性期～急性期の病院 | 災害時の医療連携、被災病院の対応、CSCATT |
| 3 | 災害サイクル超急性期～急性期の被災現場、救護所 | 急性期の医療、トリアージ、災害に特有の疾患と応急処置 |
| 4 | 災害サイクル急性期の3Ts | 【演習】トリアージの実際 |
| 5 | 災害サイクル急性期の3Ts | 【演習】トリートメント 包帯法、骨折時の固定 |
| 6 | 災害サイクル急性期の3Ts | 【演習】トランスポート(担架搬送、毛布を使った搬送) |
| 7 | 災害サイクル急性期～亜急性期・地域 | 避難所の看護 |
| 8 | 避難所運営 | HUG(避難所運営ゲーム) |
| 9 | 被災者の特性と看護 | 災害時要救援者、福祉避難所 |
| 10 | 災害時のこころのケア | 被災者、援助者、被災者で援助者へのこころのケア |
| 11 | DVD鑑賞 | DVDの鑑賞から学んだ、看護師になるものとしての考え方 |
| 12 | 国際救援 | 世界の災害 国際救援の基本的な考え方 国際救援のシステム JDRの活動 |
| 13 | 国際看護 | 国際看護の概念 看護・保健の立場から見た世界の現状 看護の視点から見た母子保健 感染症 高齢者 |
| 14 | 国際看護 | 医療に関する歴史的経緯 PHC、UHC MDGsとSDGs 国際看護活動の考え方と必要な能力 |
| 15 | 国際看護 | 国際看護活動の実際(ネパール) 日本在住の外国人への看護、世界の看護師不足と対策 |

| | |
|--------|---|
| 評価 | 災害看護(終講時レポート40%、筆記試験40% 演習・グループワークの参加態度20%) 国際看護(客観テストによる評価100%) |
| 教科書 | 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学(医学書院) |
| 参考図書など | |

| | | | | | |
|-------|-----------|---------------|------|--------------|----------------------|
| 学校名 | 茅ヶ崎看護専門学校 | 学科名 | 看護学科 | 開講年度 | 2022年度 |
| 授業科目名 | 看護研究 | | | 担当教員 増田信代 | |
| 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 3年 前期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務経験の有無・職種・年数 | | | 実務経験：有、病院勤務（看護師）：16年 |

授業概要

看護研究の基本を学び、看護における研究の意義、研究の種類、研究方法、研究に関する倫理的配慮などの必要な知識を学修する。さらに、研究計画書を作成し事例をまとめることで実践した看護を評価し、論文のまとめ方・発表の仕方を学修する。

到達目標

1. 看護研究の必要性と意義を述べることができる。
2. 看護研究の種類と特徴を述べることができる。
3. 人を対象にした研究倫理について述べることができる。
4. 文献の活用を行うことができる。
5. 看護研究計画書作成に必要な項目と配慮すべき内容を記載することができる。
6. 事例研究の方法について述べることができる。
7. 看護研究の方法を活用し、論文をまとめることができる。
8. 発表することができる。

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|---------------|---|
| 1 | 研究の意義 | ①研究の原点、②看護研究とは、③看護研究と実践 |
| 2 | 看護研究における意義と倫理 | ①研究の意義・必要性・重要性、②看護における研究の課題、③看護研究における倫理的配慮 |
| 3 | 看護研究のクリティック | ①文献の意義、②文献の読み方 |
| 4 | 看護における文献検索 | 文献検索の実際 |
| 5 | 看護研究のアプローチ | ①EBMの実践、②研究方法、③研究デザイン、④量的・質的研究 |
| 6 | 看護研究の実際 | ①ケーススタディとは、②看護研究とケーススタディ、③看護研究テーマの絞り込み、④研究計画書 |
| 7 | 看護研究の実際 | 研究計画書 |
| 8 | 看護研究の実際 | 研究計画書/論文作成及び今後の進度確認 |
| 9 | 看護研究の実際 | 指導教員から指導を受ける 研究を実際に進め、まとめる |
| 10 | 看護研究の実際 | 指導教員から指導を受ける 研究を実際に進め、まとめる |
| 11 | 看護研究の実際 | 指導教員から指導を受ける 研究を実際に進め、まとめる |
| 12 | 看護研究の実際 | 指導教員から指導を受ける 研究を実際に進め、まとめる |
| 13 | 看護研究の実際 | 指導教員から指導を受ける 研究を実際に進め、まとめる |
| 14 | 看護研究の実際 | パワーポイント作成時のポイント 発表原稿のポイント |
| 15 | 看護研究の実際 | 口頭発表 |

| | |
|--------|--|
| 評価 | 客観テストによる評価、研究計画書、指導経過表、ケーススタディとしてまとめた論文（ケーススタディの評価は評価表による） |
| 教科書 | 系統看護学講座 看護研究（医学書院） |
| 参考図書など | 適宜紹介する |